

黄色い野原

文と絵 柴 岡 治 子

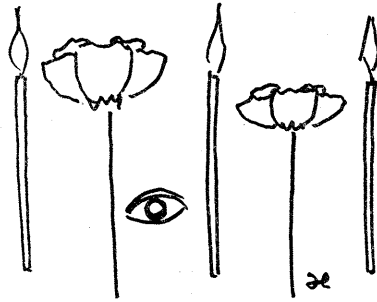
遠くに電車が走っています。

その前に黄色い原っぱがあります。黄色いのは月見草がいっぱい、いっぱい咲いていたからです。

その原っぱにはお宮をぬけていきます。お宮の前におばさんの家がありました。

朝、お父さんが病院へお仕事に行くのについて、おばさんは何度も原っぱまで行きました。月見草は朝早い頃にはまだしぼまずに咲いていました。

月見草を英語でナイト・キャンドルと言うんだよと、お父さんが教えてくださいました。ナイト・キャンドル、ナイト・



キャンドル、そうおばさんがお父さんのまねをしようと、みんなローソクに火がともってゆれているようにみえました。朝日がかがやいているのに、まだ残っていた夜つゆが光ったのでしょうか。

月見草がそんなにたくさん咲いている原っぱに、そのあとおばさんは出会ったことがあります。けれど目をつぶらなくても、遠くの電車と黄色い原っぱは、おばさんの頭の中にはっきりと広がってきます。そして月見草を英語でナイト・キャンドルと言うんだよと言ったお父さんの後姿も。

そのせいかおばさんは今もローソクが大好きで、世界のいろんな国に行くと、ついローソクを買ってしまいます。荷物が重くなって困ってしまうのに。

|| 終 ||